

第5回 いわき市復旧・復興計画検討委員会 議事要旨

I 開催日時：平成23年 8月26日（金）13:30～16:00

II 開催場所：いわき市文化センター 大講義室

III 出席者

1 検討委員会委員（五十音順、敬称略）

職名等		氏名	出欠
筑波大学大学院	システム情報工学研究科 講師	梅本 通孝	出席
東日本国際大学	福祉環境学部 教授	遠藤 寿海	出席
いわき商工会議所	会頭	小野 栄重	出席
福島工業高等専門学校	建設環境工学科 准教授	齊藤 充弘	出席
いわき市立総合磐城共立病院	病院事業管理者	平 則夫	出席
日本大学	副総長・工学部学部長	出村 克宣	出席
いわき明星大学	科学技術学部 教授	東 之弘	欠席

2 事務局出席者

職名等		氏名	
副市長		伊東 正晃	
行政経営部	部長	大和田 正人	
	復興監	前田 直樹	
	次長	阿部 直美	
	次長	佐藤 克房	
	行政経営課長	鈴木 善明	
	復興支援室長	園部 衛	
	危機管理課長	緑川 伸幸	
	行政経営課	課長補佐	緒方 勝也
		係長	木田 努
		主査	山形 裕之
主査		中根 政敏	
	事務主任	折笠 雄司	

IV 次第

○ 第5回委員会

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 復興ビジョンにおける主要な取組等に係る協議・検討
 - (2) いわき市復興ビジョンへの提言（たたき台）に係る協議・検討
- 3 その他
- 4 閉会

V 主な内容

(1) 復興ビジョンにおける主要な取組等に係る協議・検討

① 目的達成に向けた復旧・復興の理念（理念5）について

議長：原子力に係るスタンスについては、前回も時間をかけて協議したところである。それを踏まえ、「原子力災害を克服するとともに、再生可能エネルギーの導入を推進し、原子力発電に依存しない社会を目指す復興（挑戦）」というようにしたところである。御意見のある方はお願いしたい。

各委員：異議なし。

② 主な施策（「取組の柱」と「主な取組み」）について

議長：前回、取組の期間を示す必要があるとの意見が出された。これを踏まえ、復旧期、復興期という形で整理されたところである。個別にそれぞれ設定することは難しいので、こういった形になっている。これについては、資料の5ページ目の推進期間ともリンクした形になっている。意見のある方はお願いしたい。

委員：取組の柱5の主な取組みについて、確かにセットアップについては、復旧期に実施すべきことであるが、取組の柱1から4までの取組みを進めていくことを考えると継続的に見ていく必要がある。そうすると、「復旧期～復興期」とするべきである。

議長：確かに復興期にかけて見ていくべきものであるので、そのように修正する必要がある。

委員：取組の柱5のタイトルが「復興の推進」となっているが、復旧から復興までみていくものなので、「復旧・復興の推進」としたほうがよいのではないか。

委員：取組の柱5について、取組の柱1～取組の柱4と質が違うのはなぜか。

事務局：これまでの協議を踏まえたものである。取組の柱5は具体的な取組を支えていく部分であり、それらを進めるための体制づくりも重要であるとの観点から位置づけられているものである。

委員：先ほど、「復旧・復興の推進」としたほうがよいと発言したが、取組の柱4までを実現するには、時間も費用もかかる。そういった意味では、これは「復興ビジョン」であるので、復旧は入れない方がよいと思っておした。

委員：今回のビジョンと今後策定される復興計画に基づいて、進められることになるわけだが、これを推進するためには、行政だけでなく市民や各種団体も一緒に進めていく観点が必要である。市民にみんなで取り組むということをつかりやすくするために、取組の柱5のところに「市全体での推進体制の強化」というような文言を加えてはどうか。

議長：主な取組みのところで、「市民・企業・市内外のまちづくり団体や高等教育機関等」という記載はあるが、主な取組みのところではなく、取組の柱5のすぐ下のところに文言を追加するということか。

委員：主な取組みのところでは、情報共有と連携といった表現にとどまっている。取組の柱のところに、復興までの長い期間をみんなで進めるといった意味合いの文言を追加すべきである。取組の柱のところに追加したほうが、概要版にも載ってくるので、市民にも伝わりやすいと思われる。

議長：どういった形にするべきか。組織体制の再編でも分かるかとも思われるが。

委員：どのような文言にするかは、自分でも分からないが、組織体制というと行政の組織というイメージがある。もちろんそこも大事であるが、市民参加という点を加われば、いわき全体でビジョンを推進するというものが見えてくるだろう。

議長：取組の柱のところに「組織体制の再編・強化」の下に、「オールいわき・オールジャパン体制による復興の推進」という形はどうだろうか。

委員：ただいまの「オールいわき・オールジャパン」という点はとてもよい。その後についてだが、「組織体制の再編・強化」というのは既存のものに対する言葉なので、新たなものという観点から、「オールいわき・オールジャパン体制の構築」というのはいかがか。

議長：ただいまの御意見はいかがか。

各委員：異議なし。

議長：それでは、取組の柱5の「組織体制の再編・強化」の下に、「オールいわき・オールジャパン体制の構築」という文言を追加することとしたい。そうすると主な取組みについても一文入れるようになると思われる。また、取組の柱5のタイトルについては、修正せず「復興の推進」のままとし、主な取組みが復旧期だけだが、これを「復旧期～復興期」というように修正したい。

委員：はじめの「復旧・復興の目的」のところで、「まちの活力が喪失されること」と記してあるが、そこまで言わなくても、「衰退」などとした方がよいのではないか。「喪失」というと、まちがつぶれていくイメージがある。

委員：「喪失される」と言ってしまうと、ゼロになるイメージがある。「喪失」という言葉を活かすとすると、「喪失していくこと」とするのはいかがか。他の言葉で表現するとなると、「衰退」といった言葉になる。

阪神・淡路大震災の時の神戸や、中越地震の時の新潟の例でも、災害だけが原因ではないにしろ、まちの活力が失われていくというのはあった。

それを踏まえると、そういったこともあり得るという懸念を示すことも必要である。

委員：本日の資料には、これまで、自分が述べてきた意見が、具体性はともかく反映されている。さらに言うならば、いわきの今ある危機感を明確にする必要がある。地震・津波だけなら、みんな頑張って復旧・復興に進んでいけると思う。しかし、原発の風評被害を何とかしないと、産業界に至っては喪失する危険もある。原発事故収束に対する強いメッセージが必要である。具体的に言うと、国策が招いた原発事故は国が責任をもって対応すべきということをいわきが発信する必要がある。この強いメッセージをビジョンに明示する必要がある。相双地区から中通り・会津地方に避難している方の中でも、よりふるさとに近いいわきに来たいという人が多い。それらを受け入れる必要がある。「いわきの復興なくしては日本の未来はない」といったことを強く訴えるべきである。「取組の柱5」のところに、「国県等の関係機関の誘致」とあるが、復興庁そのものを持ってくるというようなことを強く国に訴えるべきである。

委員：大きなメッセージをどこに盛り込むかというのは難しい。

委員：これは、目的をもう一つ足すくらいでないと盛り込めないと思う。

委員：「目的1」の文章にも原子力に対する文言は記してある。しかし、その上の「復旧・復興の目的」のところには、原子力災害の話は触れられていない。大震災という言葉に包含されているのだろうが、震災というと地震・津波といったイメージがある。ここの箇所に原子力災害についても記載しておくことが必要である。

これまで、今回の委員会では、2つの大きな目的を設定して、理念、取組について協議してきたところである。ここで目的を追加するというのもいかなものか。また、原子力に対するスタンスはビジョン全てに関わってくるので、目的に入れるというよりは、文章の中で強いメッセージを示していくことが必要である。

委員：新たに目的を追加するのではなく、目的1、目的2でも原子力については触れられているので、その辺をもっと強く訴えていくことが必要である。

事務局：事務局からの提案ですが、実際にパブリックコメントの際に市民に示すものは、このあと、御協議いただく「いわき市復興ビジョンへの提言（たたき台）」のほうになる。その冒頭にある「ビジョン策定の趣旨」のところにメッセージ性の強い形で示していくのはいかがか。

議長：ただいま事務局から提案のあったように、たたき台の趣旨のところに強く訴えるようにしたい。

委員：文言の使い方に統一性がないように思われる。「オールいわき・オールジャパン」と併記しているところもあれば、そうでないところもある。

議長：内容によって使い分けているが、文言については最終的に確認したい。

③ 概要版について

委員：理念1～理念5を束ねるような何か大きなアピール性のある言葉が欲しい。我々のというより、市民の熱い思いを入れるべきである。「いわきの復興なくして日本の未来はない」というような強いメッセージを入れるべきである。そして、その下に冷静に考えた理念、施策を入れる形にしたい。

議長：その辺については、この後協議するキャッチフレーズに盛り込むのはいかがか。今回のビジョンの看板になるものでもあるので、そこに熱い思いを盛り込んだ方がよいと思われる。

委員：理性ではなくエモーションに訴えることも大事である。ところで、この概要版の色だが、ちょっと落ち着きすぎていると思う。もう少し目を引くものがよい。

委員：私が復興庁にこだわる訳だが、これは来年の4月に設置されるのは間違いないところである。復興庁はプランを策定するだけではなく、実施部隊であるので、東北に持って来なくてはならない。通常、東北というと、宮城県にいつてしまう。原発の問題を考えれば、いわきに置くべきである。そして本腰を入れて原発事故の収束に当たってもらう必要がある。さらには、市民の健康面での不安を取り除いてもらう必要もある。それにより、安心ないわきのアピールにつながることになる。

(2) いわき市復興ビジョンへの提言（たたき台）に係る協議・検討

① 復興ビジョンへの提言（たたき台）について

議長：これについては、先ほどまでの協議で、はじめの「ビジョン策定の趣旨」のところに原子力災害関係について加筆するとしたので、そのようにしたい。

委員：組織体制の再編・強化のところだが、どういう方向性なのか、確認したい。

事務局：現在、御検討いただいている復興ビジョン、さらには、今後策定していくこととなる復興計画を踏まえ、これらを確実に推進するための組織体制の構築について検討する必要があるということである。

委員：今後、市民委員会において具体的な施策を決定し、計画ができていくことになる。その計画の実行に際しては、行政だけで進めてはいけないと思っている。復興センターというようなものを設置し、民間の力も入れて実施していくべきであり、そういった組織体制を構築する必要がある。神戸の時も商工会議所会頭が筆頭となってセンターを運営し、民間の力を引き出しながら、進めたという経緯もある。そういう例もあるので、民間の力を引き出すような組織体制を構築する必要がある。

委員：先ほどの原発の関係機関の誘致についてだが、「取組の柱5」の主な取組みにある「国県等の関係機関の誘致」というところを「原発の関係機関の誘致」のように具体的にすると、イメージもしやすいかと思われる。

議長：ただいまのところは、例えば、「復興や原発事故の収束に係る国県等の関係機関の誘致」というような形で整理したい。

② キャッチフレーズ（案）について

委員：キャッチフレーズは短い言葉の方がよい。

委員：復興した後にいわきはこうなっているというイメージの言葉になる。「がんばっぺ！いわき」は何にがんばるのか、という印象を受ける。10年経ったらいわきはこんな風になっているということを表す言葉を探すという作業になるかと思う。

委員：全体の根底にあるのは、「いわきの復興なくして日本の未来はない」ということである。これは自分の信念でもあるが、46年前に常磐炭鉱が閉山に追い込まれたとき、いわきの産業が壊滅的になるだろうと言われた。そのときに立ち上がったのがフラガールだった。彼女たちは今も一生懸命に全国を行脚し、他県の人たちにいわきのPRをするとともに深い感動を与えている。個人的に今一番感謝したいのはフラガールの皆さんである。そういった意味からも「フラガールスピリットをもう一度」とか、いわきならではのメッセージを込めていく必要がある。

委員：今までの話を伺うと、「日本の未来を支えるいわきの復興」という案もある。

委員：いわきの方向性を示すという意味で「日本一のまち・いわき」というのはいかがか。

委員：全てを表す言葉というのにはあり得ないと思う。このキャッチフレーズが言葉だけにならないようにしていく必要がある。市民のみんなが、がんばれるような気持を持てるようにする必要がある。

委員：いわきを中心に表せるような言葉、「日本の復興はいわきから」というように明らかに表していくべきである。

委員：「日本の復興はいわきから」に何かみんなでというニュアンスも必要と思う。「日本の復興はいわきから みんなでがんばっぺ！いわき」というように。

委員：「日本の復興はいわきから」の「いわきから」を「オールいわきから」とすれば、みんなでというところは伝わるのではないか。

委員：先が見える部分も大切ではあるが、「日本の復興はいわきから」というのは感覚的にどうかとも思う。もう少し柔らかい表現があってもよいのではないかという感想をもつ。ファンタジー的なものもどうかとは思いますが、今のところは、「光に向かって 日本の復興はいわきから」というようなものしか思いつかない。この「光」の指すものが具体的に分かればよいと思う。

委員：こういったものを掲げていくときに、1つ目には、将来目指すべき見通しを感じるもの、2つ目に復興にかけるいわき市民の取組の姿勢を感じるものが必要になると思う。個人的には思いつかないところであるが、先ほどの「日本の復興はいわきから」を「日本の復興をいわきから」とするとより分かりやすいかと思われる。

議長：「日本の復興をいわきから」をベースにして、もう少しふくらませたいと思う。

委員：補足的なメッセージの内容は理念に示されている。こういったものは短い方がより伝わると思う。

委員：市民が受ける違和感はあるかと思うが、そこは御理解いただくということで、やはり短い言葉にするのがよいと思う。

委員：「日本の復興をいわきから」というものに副題として、「いわきビジョン」とつけるのはいかがか。

委員：これまで、我々が議論してきた理念1から理念5については、復旧的なものだけではなく、前向きにやっていくという面もあったと思う。そういった面を出していきたい。

委員：こういう言い方は大変失礼ではあるが、今回の震災は千年に一度の大災害だが、考えようによっては、千年に一度のチャンスと捉えることもできる。これだけ国が予算をつけるというのは今後ないであろう。この震災をどうやってチャンスに変えていけるか、というのも大事である。そういう気持ちを共有できるようなものであればよい。

事務局：これまでの議論を踏まえさせていただいた上で、事務局として提案したい。キャッチフレーズについては、いったん「日本の復興をいわきから みんなでがんばっぺ！いわき」とし、これをサブタイトルとして市民に示し、これについてもパブリックコメントにより意見を求めることとする手法もあるかと思われる。

議長：ただいま事務局より提案があったが、とりあえず、「日本の復興をいわきから みんなでがんばっぺ！いわき」と整理した上で、パブリックコメントで意見を募集することとしたいが、いかがか。

各委員：異議なし。

議長：それでは、本日の修正については、委員長が確認し、その上でパブリックコメントを実施したいと思います。よろしいでしょうか。

各委員：異議なし

(3) その他（今後のスケジュールについて）

- ・ 第6回は、当初のスケジュール（案）のとおり、9月26日（月）に実施することとした。